

The 25th Exhibition of the Taro Okamoto Award for Contemporary Art

第25回

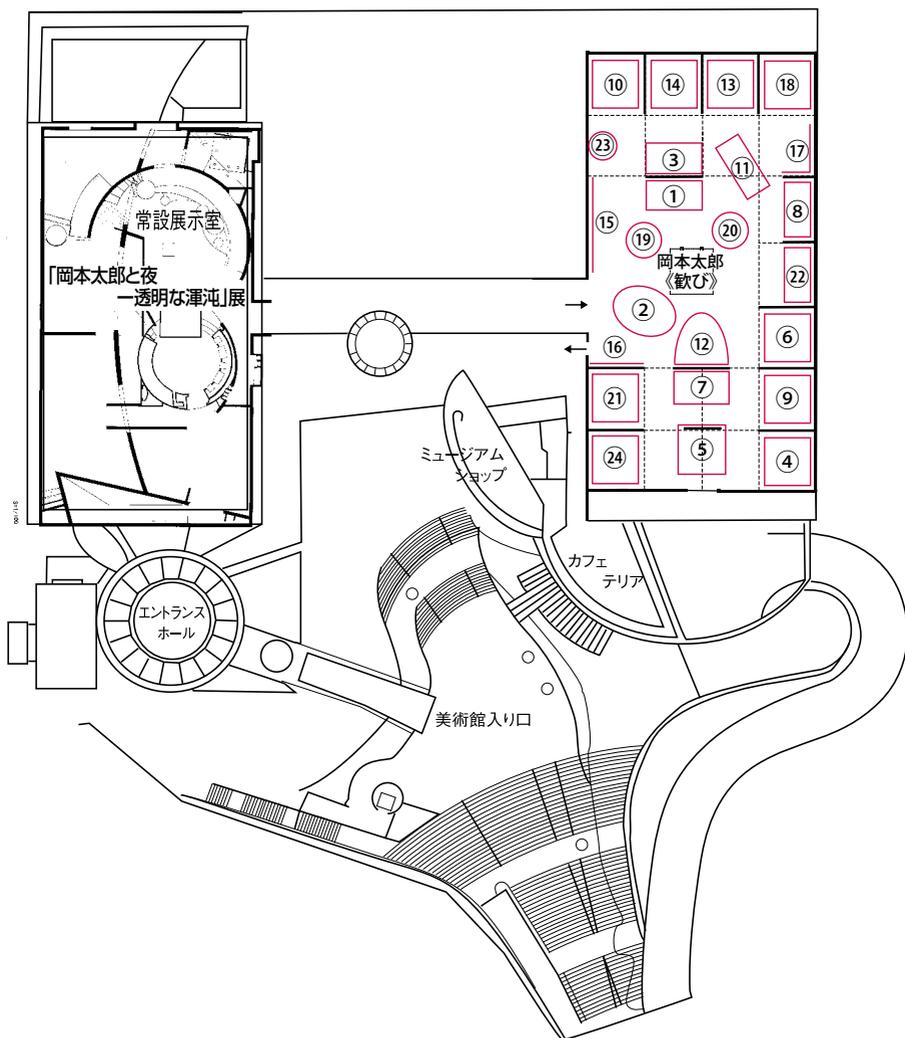
# 岡本太郎現代芸術賞展

糸工口入愛

# TARO 賞

川崎市岡本太郎美術館  
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

Thread breathes



- ①吉元 れい花／②三塚 新司／③伊藤 千史／④硬軟+stenographers／⑤藤森 哲／⑥村上 力／  
 ⑦青山 夢／⑧井下 紗希／⑨因幡 都頼／⑩岡田 杏里／⑪岡田 智貴／⑫角 文平／  
 ⑬GengoRaw (石橋友也+新倉健人)／⑭平良 志季／⑮高田 茉依／⑯張 安迪／⑰津川 奈菜／  
 ⑱出店 久夫／⑲中澤 瑞季／⑳野々上 聡人／㉑堀川 すなお／㉒森下 進士／㉓Yoko-Bon／㉔与那覇 俊

## ごあいさつ

時代に先駆けて、たえず新たな挑戦を続けてきた岡本太郎。岡本太郎現代芸術賞は、岡本の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するべく設立されました。今年で25回目を迎える本賞では、578点の応募があり、創造性あふれる24名(組)の作家が入選を果たしました。21世紀における芸術の新しい可能性を探る、意欲的な作品をご覧ください。

2022年2月

公益財団法人 岡本太郎記念現代芸術振興財団  
川崎市岡本太郎美術館

## Introduction

Taro Okamoto was an avant-garde artist who took on new challenges ceaselessly. The Taro Okamoto Award for Contemporary Art was established to honor artists who have inherited Taro's will to present sharp messages to society based on unfettered ideas and unique viewpoints. The award, which is now in its 25th year, attracted 578 solicitations of artwork, and the prize was given to 24 artists. We hope that you enjoy the highly-motivated that explore the possibilities of fine art in the twenty-first century.

February 2022

Taro Okamoto Memorial Foundation for Contemporary Art  
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

## 入選作家 (50音順)

青山 夢 AOYAMA Yume / 井下 紗希 ISHITA Saki / 伊藤 千史 ITO Chifumi  
 因幡 都頼 INABA Torai / 岡田 杏里 OKADA Anri / 岡田 智貴 OKADA Tomoki  
 角 文平 KADO Bunpei / GengoRaw (石橋友也+新倉健人) GengoRaw (ISHIBASHI Tomoya+NIIKURA Kento) / 硬軟+stenographers KO-NAN+stenographers /  
 平良 志季 TAIRA Shiki / 高田 茉依 TAKADA Mai / 張 安迪 ZHANG Andi /  
 津川 奈菜 TSUGAWA Nana / 出店 久夫 DEMISE Hisao / 中澤 瑞季 NAKAZAWA Mizuki /  
 野々上 聡人 NONOWE Akihito / 藤森 哲 FUJIMORI Satoshi /  
 堀川 すなお HORIKAWA Sunao / 三塚 新司 MITSUZUKA Shinji /  
 村上 力 MURAKAMI Tsutomu / 森下 進士 MORISHITA Shinji / Yoko-Bon Yoko-Bon /  
 吉元 れい花 YOSHIMOTO Reika / 与那覇 俊 YONAHARA Shun

## 審査員 (50音順)

樫木 野衣 美術批評家 / 多摩美術大学教授  
 土方 明司 川崎市岡本太郎美術館館長  
 平野 暁臣 空間メディアプロデューサー / 岡本太郎記念館館長  
 山下 裕二 美術史家 / 明治学院大学教授  
 和多利浩一 ワタリウム美術館キュレーター

[凡例] 作家ごとに次のデータを掲載しました。  
 作家名、作品名、作品サイズ(高さ×幅×奥行)cm、素材、作家の言葉、作家略歴など



|  |       |   |  |
|--|-------|---|--|
| <b>1</b> 岡本太郎賞<br><b>吉元 れい花</b><br>YOSHIMOTO Reika | 作品名   | The thread is Eros, It's love !                     | The thread is Eros, It's love !  |
|  | 作品サイズ | 500×500×120cm                                       |  |
|  | 素材    | 布(木綿、絹、ポリエステル等)、糸(木綿、絹、麻、レーヨン、ポリエステル、メタリック糸等)、木製パネル | Cloth (cotton, silk, polyester, etc.), Thread (cotton, silk, linen, rayon, polyester, metallic, etc.), panel |

◆作家の言葉

2022年、ダイナマイト・ストリッパーズは「繡国」に降臨。神々が見守る先では、最強巫子オーディションの真最中。巫子は叫ぶ。「糸はエロスだ！ 愛だ！ 煌蜜の滴りだ！」それは生きとし生ける全ての命が、糸の「接」―触れ合いに息づく世界。Strip…剥ぎとる release…解放。パンデミックであぶりだされた、矛盾や不条理だらけの世の中。今こそ世界はストリッパーになろう。糸と針で、脱いで脱いで縫い倒そう。まあい刺繍枠で世界平和だ！

今回、初めて刺繍の「裏側」を展示した。表からは見えない、縫いの迷いや葛藤が糸目の隙間から滲んでくるようで怖い。怖いけれど、この「恥部」を私は大切にしたい。

◆略歴

麗花刺繍 創始  
 染織会 主宰  
 桐朋学園芸術短期大学演劇科卒業。モダンダンサーのアキコ・カンダ氏に師事、Martha Grahamメソッドを学ぶ。レヴューの世界へ飛び込み、引退後、刺繍作品の制作を開始。表現の神髄は肉体に在るという信念を持つ。素材や色艶、生産地など、糸そのものが持つ個性や、ステッチごとに表現される、糸目の方向や密度、ふくらみや角度など、手刺繍ならではの特性。人間の手の中で、人間の手の速さでしか進まない、一針一針の前進。それらが複雑に絡み合い浮かび上がる、魂の呼吸を表現している。



【審査評】

糸は人類の古層とともにあり、ひとの歴史的な歩みや文明の命運を見守り、傷や裂け目を縫い合わせ、わたしたちの生命を、一人一人の生身の身体を通じて明日へとつないできた。なかでも刺繍は、手で糸を手繰り、針をくぐらせ、命の結節点としてのエロスと愛を吸収し、折りごとに発散する媒体(メディア=巫女)だ。そのような糸と針と手による根源的な力は、コロナ禍での虚実を見事に剥ぎ取り、すべてを素のままの姿へとさらけ出す。本作が放つまるで暗闇の中の放電現象のような刺繍エネルギーが、今こそ求められている。(樫木野衣)



## 2 岡本敏子賞

### 三塚 新司

MITSUZUKA Shinji

|       |               |                 |
|-------|---------------|-----------------|
| 作品名   | Slapstick     | Slapstick       |
| 作品サイズ | 270×300×600cm |                 |
| 素材    | バルーン、送風機      | Balloon, blower |

#### ◆作家の言葉

2020年4月「新型コロナウイルスの感染拡大は、グローバル化がその一因となった。」との報道を目にした時、私はその時まで感じていた「違和感」の正体を理解した。私は長年、「私たちは『豊かさ』と『リスク』を交換しているのでは無いか、」という疑いを持っていたのだ。

私はその疑いを作品化したいと願い、それには「バナナの皮」が最も適している。ということに気が付いた。巨大な「バナナの皮」は、そのサイズに見合う巨大な存在の転倒を暗示する。私はその作品のタイトルを「Slapstick」と名付けた。

#### ◆略歴

1974年生まれ。高校卒業後、スキーパトロール、ライフガード、ソーブランドの清掃、自転車便メッセンジャーなどの職を経て、1999年に東京藝術大学へ油絵科受験にて入学。入学後に先端芸術表現科へ一期生として転入し、在学中よりNHKの子供番組の放送作家として映像関係の仕事に携わる。その後、雑誌編集者、テレビ局ディレクターを経て、2018年より作品発表を始める。

#### 【展示・受賞】

- 2019 SICF20
- 2020 公募展 UNKNOWN ASIA 2020 審査員賞受賞
- 2021 神奈川県美術展 県議会議長賞受賞  
SICF22



#### 【審査評】

岡本太郎がこの作品に対峙したら、両手を広げ、カッと目を見開いて「何だこれは!」と言うに違いない。私も、会場入り口でこの巨大なバナナの皮にいきなり出くわしたとき、思わず息を呑んだ。一見、単純な、いい意味でバカバカしい造形。しかし、色彩、質感などは可能な限りつくりこまれていることに好感を持った。Slapstickとは、「叩く棒」が転じて、舞台のドタバタ喜劇を意味する言葉。作者は、足をすべらせるこのバナナの皮によって、「巨大な存在の転倒を暗示する」という。バナナ栽培の歴史まで丹念に調べ、周到に構想された、でも「何だこれは!」と思わせる強烈なインパクトがある作品である。(山下裕二)



|                               |       |   |   |
|-------------------------------|-------|---|---|
| 3 特別賞<br>伊藤 千史<br>ITO Chifumi | 作品名   | 書店レジ前の平台                                | Flatbed in front of the book store cash register  |
|                               | 作品サイズ | 300×500×300cm                           |   |
|                               | 素材    | ダンボール、胡粉ジェッソ、墨汁、その他(スチレンボード、布、画用紙、顔料絵具) | Cardboard, gofun gesso, india ink, others (styrene board, cloth, drawing paper, pigments) |

◆作家の言葉

思い出に残る書物や空間、時間が詰まった昭和のノスタルジックを感じさせる書店、70年代80年代の幼かった頃の原風景が蘇りその時代の人間の内面から出てくるようなパワーが今の令和の時代に欠けている要素だと感じています。無くしてはいけない忘れられていく空間を自身の表現として墨とダンボールでデジタルの時代にアナログなパワーを持つ事で新たな空間表現として確かに存在するのです。

◆略歴・展示

- 1965 静岡県生まれ
- 1987 女子美術短期大学造形科グラフィックデザイン教室卒業
- 2014 個展(富士宮市富士山環境交流プラザ/静岡)
- 2015 個展(RYU GALLERY/静岡)
- 2017 個展(Yellow Passion/静岡)
- 個展(Botanica/静岡)
- 2018 個展(富士芸術村/静岡)
- 2020 個展(ARATA GALLERY/静岡)
- 2021 個展(Yellow Passion/静岡)



【審査評】

今では、存続しにくくなってしまった町の本屋さんを模したインスタレーション作品は、先ず手にとって開いて読める点に魅了された。タイトルを少し変えたり、時勢に沿うようであまりだけズラしていくことで、作品全体のズレ感をより強くしている。平台の下隅にあるネズミの家を見落とさないように。過去作品も非常に評価できるものが多く、今後の活躍を期待したい。(和多利浩一)

|   |       |  |  |
|---|-------|--|--|
| 4 特別賞<br>硬軟+stenographers<br>KO-NAN + stenographers | 作品名   | 速記美術のエレメント   | Elements of shorthand art                                      |
|   | 作品サイズ | 480×500×500cm                                      |  |
|   | 素材    | 速記者による速記ドローイング(古事記、憲法前文、検定問題など)、映像(7分13秒)、ミクストメディア | Shorthand drawing by stenographers, movie (7m13s), mixed media |

◆作家の言葉

国会中継や議会で所々に映り込む速記者。彼らは各流派の速記符号を操り、答弁を国民代表の耳として記録し、公文書に変換(反訳)し国会図書館へおさめている。①近代史と密接に関わる歴史性 ②感覚器官の極限を思わせるような身体性 ③同時字幕や機械式への展開といった技術性 ④符号がもつ暗号的側面からくる言語伝達性 ⑤そしてなにより国会という場の最も中心において速記者のペン先が研ぎ澄まされたドローイングを量産している痛快さ…。二物衝撃・換骨奪胎によって文化風俗の再演出をはかる『硬軟』はこれらすべてに魅力と可能性を感じ『速記

美術宣言』を発表。今作は議会をはじめ多様な活躍の場を持つ速記関係者(ステノグラファーズ)との、約5年に及ぶ協働作品を中心に展開。

◆略歴

- 2014 千葉大二郎(1992～)主宰『硬軟』発足
- 2017 『速記美術宣言』発表
- 2018 機関紙『日本の速記』表紙絵担当(～現在)
- 硬軟+林香苗『速記⇄美術⇄エレメント』(早稲田速記医療福祉専門学校)



【審査評】

速記とはなんだろうか。知っているようで、わからない。しかし国会中継など見ていると、速記された文字が、私たちの生活を根底から規定することに使われているのはあきらかだ。正確さだけなら録音でもよいのに、なぜ速記なのだろうか。こうした疑問を、まさか美術を通じて引き出されるとは思ってもいなかった。しかし気づいてみれば、速記は文字と言うよりはるかにドローイング的であり、エモーショナルでもあり、さらに言えば舞踏のように身体と密に連動していて目が離せない。(楳木野衣)

## 5 特別賞

### 藤森 哲

FUJIMORI Satoshi

|       |                 |                                    |
|-------|-----------------|------------------------------------|
| 作品名   | 往日後来図           | Drawing of the World we would have |
| 作品サイズ | 350×500×500cm   |                                    |
| 素材    | 油彩、キャンバス、綿布、パネル | Oil on canvas, cotton cloth, panel |

#### ◆作家の言葉

1992年、毛利衛が宇宙へ行った。

当時描かれた来るべき21世紀の未来予想図は、月面基地や宇宙旅行の夢に溢れていた。その様は「国家」や「戦争」という人類に不可欠な要素が描かれなかった故に、現実と大きく乖離した。そこにあったのはユートピアであり、別世界のおぼなしてである。

1世紀から3世紀にかけて栄えたクシャナ朝の仏像を観る機会があった。それは近未来的な現実味を孕んでいた。既に滅びた歴史は、いつか私たちにも起こるディストピアとしての未来と重なり、文明がループする。飛行士がヒーローになったことも、崇められる仏像に似ている。

#### ◆略歴

1986 神奈川県横浜市生まれ

2011 筑波大学人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻洋画領域修士

#### 【受賞】

2015 第51回神奈川県美術展 はまぎん財団賞

2021 清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ 準大賞  
絵画の筑波賞展 奨励賞

#### 【個展・グループ展】

2020 シェル美術賞展2020 (国立新美術館／東京)

おやま豊門芸術祭 うつろいの住処 (豊門会館和館 旧和田豊治家住宅／静岡)

2021 個展「清須市はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ Vol.96 藤森哲展」(清須市はるひ美術館／愛知)

個展「絶対景感」(コパヤシ画廊／東京)



#### 【審査評】

油彩表現にはまだこんな可能性が残っていたのか！ その色彩と質感に驚きをもって近づくと、劇画の如く精緻でクールなタッチに包まれた宇宙飛行士は、発掘されたミイラのような表情をしていた。不気味だ。奥に進むと今度は観客自身が前代未聞の世界観に包まれる。「クシャナ朝の仏像は近未来的な現実味を孕んでいた」「既に滅びた歴史は、いつか私たちにも起こるディストピアとしての未来と重なり、文明がループする」。そう語る作者が描く世界は似たものがなく、説明不能でもあるが、なぜかワクワクする。強力なイメージ喚起力があるのだろう。すべてにおいて“濃い”のだ。練り込まれたコンテンツは強い。(平野暁臣)

## 6 特別賞

### 村上 力

MURAKAMI Tsutomu

|       |                                 |                        |
|-------|---------------------------------|------------------------|
| 作品名   | 異形の森                            | The forest, Grotesques |
| 作品サイズ | 500×500×500cm                   |                        |
| 素材    | 麻布、樹脂、漆、アクリル、木、電球、コード、鉄、竹、紙、皮、他 | Mixed media            |

#### ◆作家の言葉

ジャコモッティの彫刻に「森」という作品があります。逆光に浮かぶ影法師にも見える、大小様々な人物と、ひとつの大きな頭部が、歪な盤の上に並んでいます。人の姿をつくり続けていると、だんだんその形がまともな存在とは思えなくなることがあります。リアルになればなる程、大きさや形が奇妙に見えてくる。恐らく制作中の彫刻家もそういう状態だったのではないのでしょうか。対象が歪む程見つめたジャコモッティに倣い、私なりに存在に迫って見たのが、今回の「異形の森」です。還暦で迎えたこの春のTARO賞展、美術教員としても定年、一区切りです。

#### ◆略歴

1961 東京都生まれ

1985 日本大学芸術学部卒業

#### 【展示】

2009 第8回あさご芸術の森大賞展 準大賞 (あさご芸術の森美術館)

2011 第20回富嶽ビエンナーレ展 佳作賞 (静岡県立美術館)

2018 第21回岡本太郎現代芸術賞展 (川崎市岡本太郎美術館)

2019 第7回日本芸術センター彫刻コンクール 金賞 (日本芸術会館)  
第55回神奈川県美術展 特選 (神奈川県民ホールギャラリー)

2020 第23回岡本太郎現代芸術賞展 特別賞 (川崎市岡本太郎美術館)

2021 第8回日本芸術センター彫刻コンクール 銅賞 (日本芸術会館)  
第9回あさごアートコンペティション スポンサー賞 (あさご芸術の森美術館)



#### 【審査評】

作者は出品作の展示イメージに、ジャコモッティの「森」をヒントにしたという。様々な人間像による「異形の森」。「異形」は現代社会の謂いでもあるだろう。麻と漆を使った乾漆作品は空洞構造である。がらんどう。リアルであると同時に、虚ろでもある。等身大の人物像はそのリアルさ故に、虚実が入れ子となった現代社会を照らし出す。既に様々な公募展で入選の実績があり、過去に太郎賞展でも受賞している。今回は、巨大なピカソ像を中心とした、展示空間の完成度が審査員の評価を得た。斬新さは無いが、作者の世界観が良く伝わる内容である。(土方明司)

|                             |       |                         |   |
|-----------------------------|-------|-------------------------|---|
| 7 入選<br>青山 夢<br>AOYAMA Yume | 作品名   | 弥勒モロトリアム                | Maitreya Moratorium                                   |
|                             | 作品サイズ | 500×500×500cm           |   |
|                             | 素材    | パネル、油彩、獣の皮、ミクストメディア、木、鉄 | Oil on panel, leather, mixed media, wood, steel frame |

#### ◆作家の言葉

これまで、山形県村山地方の供養習俗であるムカサリ絵馬の取材を通し、人々が自然と共に暮らす環境の中で、人の死を思う人間の普遍的な形式をモチーフにして作品をつくってきました。現代生活において、絶対的な自然の破壊力によって、世界は混迷しています。本制作では、制限され生きづらさを抱える中で、境界なく入り混じりつながら獣に強い可能性を感じ、様々な獣の皮膚を結合させ、制作しました。治癒と破壊を繰り返す、人間と自然の共生を神話学的思考で捉え描き、現代の神話を生み出します。

#### ◆略歴

1997 茨城県生まれ  
2020 東北芸術工科大学芸術学部洋画コース卒業  
2021 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程芸術文化専攻在学中  
【個展・グループ展・受賞】  
2019 青山夢個展“不条理を凝視せよ”/コート・ギャラリー国立  
3331 ART FAIR 2019/3331 Arts Chiyoda  
2020 ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI  
2020 (丸の内賞)/行幸地下ギャラリー

みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2022「現代山形考-藻が湖伝説」/オンライン配信  
2020年度日本文化芸術財団奨学生  
2021 公益財団法人クマ財団5期奨学生  
第34回ホルベイン・スカラシップ奨学生



|                              |       |               |                       |
|------------------------------|-------|---------------|-----------------------|
| 8 入選<br>井下 紗希<br>ISHITA Saki | 作品名   | 這う、知る、漲る      | Crawl, Realize, Swell |
|                              | 作品サイズ | 500×500×250cm |                       |
|                              | 素材    | 油彩、キャンバス      | Oil on canvas         |

#### ◆作家の言葉

生活の中で出会った植物をモチーフに、日々沸き起こる感情の起伏を投影するようにして絵を描いています。有機的なものや繊維、何かを溜め込んだような形や質が、人の持つ感情と連動しているように見え、溢れかえったそれらのイメージを画面内の湿度で融合させていくことに描く意味があると思っています。  
中央に展示した3つの絵は、向かって左手より順に「這う」「知る」「漲る」というテーマで、思春期の精神的な落ち込みを乗り越えて生きてきた自分自身の内面を表現しました。描くことで、ある絶望や不安、葛藤、希望、欲求、生命力を肯定していきたいです。

#### ◆略歴

1997 神奈川県生まれ  
2021 武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒業  
武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース1年在籍  
【受賞・展示】  
2019 アートとの遭遇展(鳥取県立博物館)  
2021 令和二年度武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀賞、三雲祥之助賞

神山財団芸術支援プログラム第8期生  
世界絵画大賞展 入選(東京都美術館)  
神奈川県美術展 入選(神奈川県民ホール)  
やないづまちなかアートプロジェクト 作品寄贈(斎藤清美術館)  
未来展2021-日動画廊美術大学学生支援プログラム-(日動画廊)



|                              |       |                              |   |
|------------------------------|-------|------------------------------|---|
| 9 入選<br>因幡 都頼<br>INABA Torai | 作品名   | 幸辛物語                         | Kou-shin story  |
|                              | 作品サイズ | 90×10,800×3cm                |   |
|                              | 素材    | 麻紙、樹脂膠、墨、胡粉、岩絵具、水干絵具、アクリル、銀箔 | Hemp paper, resin glue, ink, gofun, pigment, suihji, acrylic, silver foil |

#### ◆作家の言葉

個人間において共通に知覚している部分を「現実」または「世界」と呼ぶのなら、人類が認識してきた様々な事象は、その時代の共有された世界として、神話や伝承に表出されています。ならば、今の時代の共通意識もまた神話になり得るのでしょうか。私は自身が観測した世界を描き続けることによって、現在・未来の私たちがどのように感じるのか、興味があります。真偽善悪美醜を描き留めることによって、作品が新たな物語の種になることを願います。

#### ◆略歴

1988 北海道生まれ  
2012 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業  
【主な個展】  
2017 「因幡都頼個展-無声-」(コートギャラリー/国立)  
2019 「12」(画廊くにまつ/青山)  
2020 「レスポワール展」(スルガ台画廊/銀座)  
【主なグループ展】  
2016 「マチネの終わりに作品展」(ヒカリエ8/渋谷)  
2017 「おじさん展」(コートギャラリー/国立)  
2020 「smoke out」(project501/渋谷)  
2021 「view point」(HIROSHIGE GALLERY/恵比寿)

#### 【公募展】

2017 「第20回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館/川崎)  
2021 「第8回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展」優秀賞(豊橋市美術博物館/豊橋)



|                              |       |   |  |
|------------------------------|-------|---|--|
| 10 入選<br>岡田 杏里<br>OKADA Anri | 作品名   | Flor y Canto 花と歌                            | Flower and Song  |
|                              | 作品サイズ | 500×500×500cm                               |  |
|                              | 素材    | 絵画：キャンバスにアクリル<br>立体：アクリル、押出ポリスチレン、木、モルタル、針金 | Paintings: Acrylic on canvas<br>Sculptures: Acrylic, extruded polystyrene foam, wood, mortar, wire |

#### ◆作家の言葉

本作品は「現実と幻想」「現代性と土着性」をテーマに、現代社会への違和感や現実世界で起こる様々な事象、訪れた土地の文化や風習、非日常の風景、先住民の神話や詩などを来しながら、メキシコと日本で制作した作品を組み合わせてインスタレーションとして再構築しました。作品名「Flor y Canto/花と歌」は、メキシコの先住民言語、ナワトル語の詩の総称で、空から歌と花が降り生命が生まれる世界をイメージしています。

#### ◆略歴

1989 埼玉県生まれ  
2013 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
2016 東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了  
2016-17 ベラクルス州立大学美術研究所に在籍  
2019-20 メキシコ国立自治大学美術専攻博士課程に在籍  
【助成】  
2016 ポーラ美術振興財団在外研修員としてメキシコにて研修  
2021 吉野石膏美術振興財団在外研修員としてメキシコにて研修

#### 【主な展覧会】

2020 個展(GINZA ATRIUM 銀座蔦屋書店/東京)  
2021 「房総里山芸術祭 ICHIHARA ART×MIX 2020+」(月出工舎/千葉)  
個展(ポーラ美術館 アトリウムギャラリー/神奈川)



11 入選

岡田 智貴

OKADA Tomoki

|       |                 |                                      |
|-------|-----------------|--------------------------------------|
| 作品名   | 大覚              | Nirvana                              |
| 作品サイズ | 438×480×150cm   |                                      |
| 素材    | 紙粘土、段ボール、ボンド、ニス | Paper clay, cardboard, glue, varnish |

## ◆作家の言葉

表に目、裏に過去「表裏一体」をイメージ。己、運命、怨念、菌。今をこの大きな目で見つめ、目の奥に潜む過去、後悔、猛省、絶望。全てを背負って生きていきたいと思って描いてきました。ですが、ウイルスによって、より剥き出しにされた富と貧困。確信と疑念。赤と青のように相容れない二極化はまるで表と裏を認識できない白い紙。そんな惨たらしいものを直視できないからこうやって、やたらめったら色を付け、着

飾ったのかもしれない。もうどうにでもなれ。

## ◆略歴

- 1997 長野県生まれ
- 2019 Liquitex THE CHALLENGE 東京藝術大学名誉教授坂口賞受賞
- 2020 TUNER AWARD 2019 未来賞受賞  
名古屋芸術大学美術学部美術学科洋画2コース卒業



12 入選

角 文平

KADO Bunpei

|       |               |             |
|-------|---------------|-------------|
| 作品名   | Fountain      | Fountain    |
| 作品サイズ | 400×400×500cm |             |
| 素材    | ミクストメディア      | Mixed media |

## ◆作家の言葉

環境問題が深刻化し、化石燃料の使用を減らし、CO2の排出削減に各国取り組んでいるが、豊かさや便利さを求め続ける我々の生活を見るとあまり危機感がないように思う。最も人間の経済活動に影響する原油をモチーフにそれを使い続ける人間、経済発展を遂げる国との関係を永遠に溢れ出るチョコレートファウンテンとそれに群がる人々というイメージで表現したのがこの作品である。コロナ禍の活動自粛によって海や大気などの環境が改善したようだが、急激に経済活動が再開されるアフターコロナの世界で、この甘い蜜とどう関わっていくのか重要な問題だと思う。

## ◆略歴

- 1978 福井県生まれ
- 2002 武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科金工専攻卒業
- [展示]
- 2006 第9回岡本太郎記念現代美術大賞展 特別賞
- 2007 第10回岡本太郎現代美術賞展 特別賞
- 2012 Tokyo Midtown Award 2012 アート部門 入選
- 2013 Art in office 2012 CCC AWARDS グランプリ
- 2020 sanwacompany Art Award 2020 グランプリ
- 2021 どこ×デザ in 旧日本銀行広島支店 入選



13 入選

GengoRaw

(石橋友也+新倉健人)

GengoRaw  
(SHIBASHI Tomoya + NIHKURA Kento)

|       |                       |                                    |
|-------|-----------------------|------------------------------------|
| 作品名   | 蒼頡AI                  | SOKETSU AI                         |
| 作品サイズ | 500×500×500cm         |                                    |
| 素材    | 映像(14分58秒)、LED、アクリル、紙 | Video(14m58s), LED, acrylic, paper |

## ◆作家の言葉

タイトルにある「蒼頡」とは漢字を発明したとされる中国の伝説上の人物。自然を見る一対の目と文字を見るもう一対の目という「4つの目」を持ち、動物の足跡を観察することで漢字を発明したとされている。本作では、象形文字を基本とし「文字でありながらイメージでもある」漢字を題材に、AIによってその発生のプロセスを再演する。漢字とその元となったイメージの対応関係を学習したAIに新たな画像や映像をインプットし、対応する象形文字的・漢字的な造形を生成。両壁面にはAIが学習した大量の画像と漢字が貼り出されており、AIと伝説を繋ぐ「4つの目」がそれらを眺める。

## ◆略歴

- 先端技術を通じて言語にまつわる実験/制作を行うアートユニット。2018年、アーティストの石橋友也とAIエンジニアの新倉健人により結成。
- [主な個展・受賞]
- 「WIRED CREATIVE HACK AWARD 2019」グランプリ
- 「第24回文化庁メディア芸術祭アート部門」審査委員会推

## 薦作品

「コトバノキカイ」(TOKAS hongo, 2021)  
「人工知能美学芸術展 美意識のハードプロブレム」(アンフォルメル中川村美術館等, 2021)



14 入選

平良 志季

TAIRA Shiki

|       |               |                                       |
|-------|---------------|---------------------------------------|
| 作品名   | Let's go☆鎖国   | Let's go☆SAKOKU                       |
| 作品サイズ | 500×500×500cm |                                       |
| 素材    | 布、墨、絵ノ具       | Cloth, Japanese ink, Japanese pigment |

## ◆作家の言葉

明治維新を下敷きに、今鎖国をしたらどうなるのかというテーマの作品です。世界、日本における様々な社会問題に不安を感じていますが、我々、若者が今の現状から時代を作っていかねばならないという重圧、世界に対する日本を考えた時の栄光とされているジャポニズムブームなどを今の目線から見て価値とは何なのかという疑問をギャグ漫画にて制作しました。

## ◆略歴

- 1990 東京都生まれ
- 2013 東京藝術大学美術学部デザイン科卒業
- 2015 東京藝術大学大学院修士課程描画装飾研究室修了
- [展示]
- 2021 個展/アートフェア東京
- 個展/池袋西武



15 入選

高田 茉依

TAKADA Mai

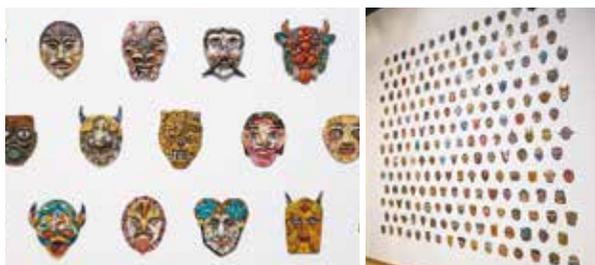
|       |               |             |
|-------|---------------|-------------|
| 作品名   | 8,000,000     | 8,000,000   |
| 作品サイズ | 500×550×3.5cm |             |
| 素材    | ミクストメディア      | Mixed media |

## ◆作家の言葉

神話や漫画、映画の世界であればヒーロー・英雄が存在し民衆を救うが、今現在そのような存在は現実にはいるのだろうか。マスク(仮面)は救世主を表すシンボルである。神やヒーローのような存在になりたいという願望から世界には数多くの仮面が存在する。

多神教である神道の世界には自然のもの全てに神が宿っているとされる八百万の神が存在する。

人の数だけ願望が存在するように、世界の仮面を引用し、八百万の神のように存在する私の、誰かの神・英雄を表現した。



## ◆略歴・展示

- 1987 福岡県生まれ  
2011 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科情報芸術コース卒業  
第16回学生CGコンテスト静止画部門 最優秀賞受賞  
第14回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品 入選  
2018 one piece & a whole展 (MASATAKA CONTEMPORARY)  
2021 カモフラージュ展 (MASATAKA CONTEMPORARY)

16 入選

張 安迪

ZHANG Andi

|       |                 |  |
|-------|-----------------|--|
| 作品名   | 皮・肉・芯           | Skin・flesh・core  |
| 作品サイズ | 220×350×3.3cm   |  |
| 素材    | パネル、雲肌麻紙、岩絵具、銅箔 | Panel, kumohada linen paper, natural mineral pigments, copper foil |

## ◆作家の言葉

宇宙を巨大な果木に喩えれば、我々は果実のよう、養分を吸収しながら成長して、完全な果実になる。しかし、熟に至ると、老衰と消滅は不可避な運命だ。容姿も皮膚も、年と共に輝きが消えていこう。皮膚の変化で老衰することを意識され、年月に齧られていると感じられる。まるで地面に落ちた完全な果実のようだと考えている。今回の作品を通じて、私は人間の皮膚、肉体、骸骨を果実の皮、肉、芯に喩え、老衰と死に対する思考を言い表したいと思う。

## ◆略歴

- 1994 中国遼寧省生まれ  
2016 中国美術学院中国画専攻卒業  
2019 武蔵野美術大学日本画有志展「knock knock knock」入選  
第73回女流画家協会展 入選  
「美術の窓」2019年7月号に掲載  
2020 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻日本画コース修了  
武蔵野美術大学卒業制作 優秀作品賞  
「美術の窓」2020年7月号に掲載

- 2021 武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程造形芸術専攻入学



17 入選

津川 奈菜

TSUGAWA Nana

|       |                    |                                  |
|-------|--------------------|----------------------------------|
| 作品名   | フレアスカートと幽霊         | Flare skirt and ghost            |
| 作品サイズ | 200×650×0.1cm      |                                  |
| 素材    | えんぴつ、パステル、アクリル絵具、紙 | Pencil, pastel, acrylic on paper |

## ◆作家の言葉

紙に鉛筆で描くドローイングを起点として制作している。繰り返し描き/消すことで、何となく現れる形や風景を探し描く。出来上がった絵を見ると、私に関係した何事かを見出すことも可能に見える。そこには多かれ少なかれ、執着を伴っていることに気付いた時、絵を描く理由とは執着を絵にしてポジティブなものへと昇華する事でもあると思える。

## ◆略歴

- 1991 広島市生まれ  
2015 尾道市立大学大学院美術研究科絵画(油画)研究分野修了  
【主な展示・活動】  
2016 「黄金町バザール2016 アジアの生活」/横浜市  
2017 BankART AIR 2017 アーティスト・イン・レジデンス/横浜市  
「フカンクウカン」(MOU 尾道市立大学美術館/広島県)  
2021 「たましいがくさいわけ」(安芸高田市立八千代の丘美術館/広島県)  
【受賞】  
2012 トーキョーワンダーウォール 入選

- 2018 シェル美術賞 入選(同'14, '15)  
ワンダーシード 入選(同'16, '17)  
2020 第73回山口県美術展覧会 大賞



18 入選

出店 久夫

DEMISE Hisao

|       |                                      |  |
|-------|--------------------------------------|--|
| 作品名   | 記憶断片つづれ織                             | Tapestry by pieces of memories   |
| 作品サイズ | 500×500×500cm                        |  |
| 素材    | ゼラチンシルバークラウド、パネル、ポリクロス紙、厚紙、ケンチントペーパー | Gelatin silver print, panel, polyethylene paper, cardboard, kentint rc paper |

## ◆作家の言葉

私写真においての記憶を使い現代を生きる私は、個人の中に沈潜している人類の歴史とその記憶を個人的で私的な地点から、批判的精神とアイロニーを持って、祝祭的に語っております。今と争いの鉄器の時代は続きますが共生の時代での一歩と取ることを願った表現です。

## ◆略歴

- 1945 福井県生まれ  
【個展・グループ展・受賞】  
1988 個展-世界・反世界-(INAXギャラリー2/東京)  
1990 エンバ賞美術展 大賞  
2000 現代日本美術展 準大賞  
2000年国際版画激請展(国立台湾芸術教育館、中正芸廊/台湾)  
2005 個展-さまざまな眼144-有象無象戯画図(川崎IB M市民文化ギャラリー/川崎市)  
2006 第9回岡本太郎記念現代芸術大賞展(川崎市岡本太郎美術館/川崎市)  
2015 思考するアート コトバノカタチ(北海道帯広美術館/北海道)

- 2016 個展-1945-忘却と記憶-2015-(東京アートミュージアム/東京)  
2020 福井発アートを変革したシュルレアリストたち 出店久夫他(福井県立美術館/福井)



19 入選

中澤 瑞季

NAKAZAWA Mizuki

|       |               |                  |
|-------|---------------|------------------|
| 作品名   | Forest        | Forest           |
| 作品サイズ | 290×300×240cm |                  |
| 素材    | 樟、アクリル絵具      | Camphor, acrylic |

## ◆作家の言葉

確かなものはない事を痛感する世の中で、身の回りに存在している物事が自分では制御できないという、世界の不確かさへの不安から、存在とは何かという問いに思いを巡らせました。現実と非現実の境界もわからなくなった時、存在に付随する揺らぎを見出しました。

この作品には、丸彫の表面に平面的なレリーフを施したレイヤーの構造があります。3次元の空間を使って表現した女性像に、普遍的な異世界であるグリム童話をモチーフとした、より二次元に近い表現を重ねました。そこで生まれるイメージのブレが、存在の揺らぎを感じさせる事を期待したのです。そしてそれは、現実を受け入れながら、現実を超越したいという思いの摩擦でもあります。



## ◆略歴

- 1995 神奈川県生まれ  
 2021 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程入学  
 [展示]  
 2016 アーツイン丸の内 GAM賞  
 2021 アーツイン丸の内 三菱地所賞  
 東京藝術大学卒業修了作品 買い上げ賞  
 グループ展 旧平櫛田中邸「彫刻と家」展

20 入選

野々上 聡人

NONOWE Akihiro

|       |               |                         |
|-------|---------------|-------------------------|
| 作品名   | Drawing       | Drawing                 |
| 作品サイズ | 350×500×400cm |                         |
| 素材    | 杉、楡にペイント      | Ceder, Japanese cypress |

## ◆作家の言葉

空中に自由に点や線を固定させるために作られたこの木造構造体はあくまで線画を支えるカンバスの役割で、間違いなく誰の目にも視認されるけど、見えない事を前提に在る。この「見えない」支持体も含めて全方位から鑑賞されるDRAWINGは堂々と所在なく、それはまるで居るけれど居ないこととする歌舞伎の黒衣(くろこ)のようだ。

ある日創作の佳境、作品のそばでひっそりと死んでいた蟹さん  
 レストインピース  
 これをあなたの墓標とし捧げます

## ◆略歴

- 1984 千葉県生まれ、描き始める  
 ??? 木を彫り始める  
 2013 アニメーションを作り始める  
 2022 まだやってる  
 2050 まだやってる  
 [主な展示]  
 2010 ベルリン「Tacheles」  
 2020 東京「Billiken gallery」  
 2021 東京「mograg gallery」

大阪「marco gallery」

- [主な受賞]  
 2019 新千歳空港国際アニメーション映画祭 審査員特別賞受賞  
 2020 第23回岡本太郎現代芸術賞展 岡本太郎賞受賞



21 入選

堀川 すなお

HORIKAWA Sunao

|       |  |   |
|-------|--|---|
| 作品名   | 絵画：バナナ#550-554"バナナ#3.(28)F.観察;日本人#1"読み;val2010-11<br>ドローイング：“バナナ#3.(28)F.観察;日本人#1"解;バナナ#570-605.21 | Banana#550-554" Banana#3.(28) F. observation; japanese#1, reading; val2010-11<br>"Banana#3.(28)F. observation; japanese#1, reading; Banana#570-#605.21                  |
| 作品サイズ | 500×500×500cm  |   |
| 素材    | 絵画：顔料、ダンマルワニス、テレピン、オイルパステル、タルク、合成樹脂塗料、綿布、シナランバーパネル<br>ドローイング：色鉛筆、マイラーフィルム                          | Painting: Pigment, dammar varnish, turpentine, oil pastel, talc, synthetic resin paint, cotton cloth, sina lumber-core plywood<br>Drawing: Colored pencil on mylar film |

## ◆作家の言葉

「人はモノの在り方をどのように分かろうとしようとしているのか」をテーマに、日常よく目にするモノを視覚、触覚などの感覚を通して捉えること、モノの捉え方を人に聞き取ること、聞き取った言葉の解釈を考えることなど、モノを通して人の認識の仕方を探っている。

2008年からバナナを対象に制作をしている。バナナは「バナナ」という言葉を聞くと、黄色くて湾曲した長細い形を想像しやすい。しかしその共通のイメージは本当に共通しているのだろうか。分かろうとしようとすることで現れるモノの在り方を、描くことを通して探っている。

## ◆略歴

- 2008 クーパーユニオン芸術大学交換留学、ニューヨーク  
 2012 京都市立芸術大学美術研究科絵画専攻油画領域修了  
 2015-2016  
 平成27年度ポーラ美術振興財団在外研修員として  
 ニューヨークにて滞在制作

## [展示]

- 2014 クリテリウム87 堀川すなお (水戸芸術館現代美術ギャラリー第9室/茨城)  
 2018 未完の庭、満ちる動き (青森公立大学国際芸術センター-青森/青森)  
 2019 Sunao Horikawa Window Display Work (ポーラザ ビューティー銀座/東京)  
 東大阪市文化創造館中庭スペース パブリックアート制作



22 入選

森下 進士

MORISHITA Shinji

|       |                      |                                      |
|-------|----------------------|--------------------------------------|
| 作品名   | 青人草                  | Aohitokusa                           |
| 作品サイズ | 215×500×350cm        |                                      |
| 素材    | 油絵具、木製パネル、エマルジョン地、木材 | Oilpaint, panel, emulsion base, wood |

## ◆作家の言葉

古代の人々の心性では、葉が人になり、巨樹は天を繋ぎ、木の俣は現世と異界の境界になり、鳥のナキ声は異界からの伝達で、森の中では星をみたそうです。身近に、見て、触れる植物に、人や神を投影してきたこの国の観念は、人間の生の基盤である自然との関係を、畏怖をもって大切に考えてきていたのでしょうか。落ちていた葉一枚から、小さな世界を想像してみます。

## ◆略歴

- 1983 静岡県引佐郡生まれ  
 2012 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了  
 2013 27カ国放浪



23 入選

Yoko-Bon

Yoko-Bon

|       |   |   |
|-------|---|---|
| 作品名   | Reincarnation                                     | Reincarnation   |
| 作品サイズ | 210×200×200cm                                     |   |
| 素材    | フェルト生地、染料、糸、アクリル、ビーズ、樹脂粘土、バルサ材、手芸用綿、スタイロフォーム、ワイヤー | Felt cloth, dye, yarn, acrylic, beads, resin clay, balsa wood, handicraft cotton, styrofoam, wire |

## ◆作家の言葉

COVID-19の脅威に襲われた世界。  
漆黒の闇のなかで、私はひと筋の希望の光を見た。  
未知の恐怖と苦難に立ち向かうことで、心と体は再生され、  
傷口からは新しい芽が吹き出していく。

命の輝き、美しさ、強さ。  
繋がり合う人々、そして命の循環。

体のなかで起きていることの不思議。  
おびたしい数の細胞の営み、日々生まれ変わる神秘の力。  
そして生命の境界線で見えてくる、力強いエネルギー。  
生命への賛美と祈りを込めて。

## ◆経歴・展覧会歴等

- 2002 奈良で主にフェルトを用いた独自の人形制作を始める。
- 2004 個展「Yoko-Bon」展(伊豆ティピエアミュージアム)
- 2015 人形絵本「まんまるパン」出版(群像社刊)
- 2016 「Yoko-Bon まんまるパンの世界展」(奈良県立図書館情報館)
- 2017 「まんまるパン～Yoko-Bonの世界展～」(大阪府立中之島図書館)

2021 三良坂平和美術館30周年特別企画展  
「Yoko-Bon's World! 絵本と猫と人形たちと」



24 入選

与那覇 俊

YONAHA Shun

|       |               |   |
|-------|---------------|---|
| 作品名   | 巨人病院⑤(1%の体験記) | Giants Hospital 5<br>(1% of its experience) |
| 作品サイズ | 150×1500×1cm  |   |
| 素材    | 油性PEN20色      | Oil-based pen in 20 colors                  |

## ◆作家の言葉

超展開漫画(第24回太郎賞選外)より派生した、挑戦的  
巨大漫画「巨人病院⑤」。1F～8Fが平行して進展する8つ  
のstoryになっており、各階は互いにlinkしている。2Fで  
は全裸で病院を歩く長さん、3Fの風さんは今でも幽霊と  
格闘…。巨人病院の中の人でも外の人と同じ人間。外の人  
には計り知れない超すごい体験から生まれるアートもある。  
コロナ直撃の世界でもっと変化しようともがきながら描いて  
いる。一度の人生、自分は一人だけで生きていたとは思  
いたくない。

## ◆略歴

- 1979 沖縄県生まれ
- 1999-2000 ポリビアへ фольクローレ(中南米音楽)遊学
- 2003 茨城大学理学部卒業  
[展示]
- 2016 全国公募ポコラート展vol.6
- 2018 沖展70th 浦添市長賞  
第21回岡本太郎現代芸術賞展 入選
- 2019 ART OLYMPIA 2019 準佳作、入選
- 2020 沖展72nd うるま市長賞

2021 Outsider Art Fair 2020 Paris 出展  
沖縄県芸術文化祭 賞候補  
ポコラート世界展「偶然と必然と」出展 他多数



## 過去の受賞者

## 第1回 岡本太郎記念現代芸術大賞(1997年)

応募総数 482点  
会場 旧水川幼稚園  
【準大賞】中山ダイスケ《DELICATE 1996》  
【準大賞】金沢健一《音のかけら5》  
【入選者】アラキヒロユキ、安里充広、井上尚子、キブシ、木村俊幸、高橋俊明、豊島隆弘、宮園広幸

寿宣、白前晋、牡丹靖佳、村上章一

## 第2回 岡本太郎記念現代芸術大賞(1998年)

応募総数 307点  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
【準大賞】小沢剛《ワンマングループショー》  
【準大賞】栗野ユミト《関》  
【特別賞】市川健治《Double Image》  
【特別賞】市川平《モニュメント》  
【入選者】青山メイジ、阿部佳明、石井匠、小野博、軽部武宏、川上和歌子、佐藤久一、佐藤仁美、清水尚、田中清隆、豊島隆弘、中村桃子、長谷川双葉、服部俊弘、山谷あきら、山本忠興

## 第3回 岡本太郎記念現代芸術大賞(1999年)

応募総数 413点  
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
【準大賞】N.キデヒト《終わらないにらめっこの抜け殻》  
【準大賞】藤阪新吾《よいこの学習》  
【特別賞】SAR《壁のない部屋》  
【特別賞】菱刈俊作《死の肖像》  
【入選者】飯沢コウスケ、売野恭子、大岩オスカール幸男、河合晋平、佐藤誠一、佐野寿子、田村真理子、藤井浩一郎、伏黒歩、ムラギシマナブ、元島佐織

## 第4回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2000年)

応募総数 513点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【優秀賞】開発好明《VANITY》  
【優秀賞】山口晃《山愚痴詩抄・尻馬八艘飛乃段》  
【特別賞】許田敦子《テッコ》  
【入選者】荒木珠奈、池島弘、坂井存、笹井史恵、杉山健司、セツ・スズギ、田窪麻周、田島弘庸、中村真紀、西尾康之、日高伸治、水野亮、山本真紀、渡辺大

## 第5回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2001年)

応募総数 327点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【準大賞】今井紀彰《On The Earth: ぼくの故郷》  
【優秀賞】ヒグマ春夫《DIFFERENCE》  
【特別賞】池上恵一《肩凝リズム》  
【特別賞】小原由子《Did you Say you were lice?》  
【入選者】糸崎公朗、猪鼻秀一、大西康明、尾上正樹、木村俊幸、坂口啓子、佐藤修一、ソガヒロシ、趙探沃、戸田

## 第6回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2002年)

応募総数 351点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【優秀賞】天明屋尚《ネオ千手観音》  
【優秀賞】えぐちりか《ストレンジ・ライフ》  
【特別賞】作間敏宏《colony》  
【特別賞】大橋博《fantasia》  
【特別賞】宇治野宗輝《日本シリーズコンプレックス》  
【特別賞】井上亜梨沙《愛染狂 カレイドスコープ》  
【特別賞】大巻伸嗣《ECHO》  
【特別賞】秋元珠江《パーセンテージ》  
【入選者】内海聖史、小市亮二、高島大理、青木克史、久保田純代、小松宏誠、吉沢美沙、小林エリカ・ハマダカオリ、さとうりさ

## 第7回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2003年)

応募総数519点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【優秀賞】小林洋子《時積層》  
【特別賞】赤松ネロ《深海の天気》  
【特別賞】さとう凜香《個人ロッカー個展》  
【特別賞】原倫太郎《Wire Frame Towers ver.2》  
【特別賞】横井山泰《わるいくせ》  
【入選者】榎谷豪人、加藤万也、金子佳代、塩谷良太、竹内美紀子、中崎透、長瀬彦彦、中島靖貴、初耳、藤井健仁、水谷一、48のネオン

## 第8回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2004年)

応募総数533点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【準大賞】藤井健仁《彫刻刑 鉄面皮プラス》  
【優秀賞】さかもとゆり《くにくにトントン》  
【優秀賞】山本電基《個人内戦争1、2》  
【特別賞】斎藤公平《選外》  
【特別賞】棚田康司《父を待つ少年・母を待つ少年》《蝶少女・天少女・花少女》《少女像》  
【入選者】今井綾子、岩本愛子、大西伸明、小俣英彦、嶋田洋平、鈴木貴博、高山真理、タムラサトル、知花玲央、もりのしんじ、平町公、渡辺一杉、平間さゆり、屋代敏博、矢部真知子、松村泰三、山本忠興

## 第9回 岡本太郎記念現代芸術大賞(2005年)

応募総数518点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【準大賞】梅津庸一《銀色の僕》  
【優秀賞】風間サチコ《風雲13号地》  
【特別賞】アサノカオリ《あたまがよくなるくすりを飲んだ》  
【特別賞】角文平×田中雄一郎《おかえり江戸城》

【特別賞】まつながあきこ《青く青く晴れわたる空にも雨は降り》  
【入選者】石田泰道、石原次郎、市川健治、大竹利絵子、賀川剣史、風間真悟、岸本京子、関口海音、君島彰子、鮫島大輔、出店久夫、長谷川ちか子、東野哲史、深井聡一郎、深堀隆介、前田紗野花、和田彰

#### 第10回 岡本太郎現代芸術賞 (2006年)

応募総数 614点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】大西康明《restriction sight》  
【岡本敏子賞】菱刈俊作《スペシャルグリッド&アザーストリーズ/SPECIAL GRID AND OTHER STORIES》  
【特別賞】角文平×田中雄一郎《ガレージキット/GARAGE KIT》  
【入選者】Antenna、平山好哉、池田学、伊東宣明、狩野哲郎、笠木絵津子、松本真由子、村田恒、澤田サンダー×増山麗奈、竹内翔、戸泉恵徳、矢部ひろすけ、山口理一

#### 第11回 岡本太郎現代芸術賞 (2007年)

応募総数 678点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】KOSUGE 1-16《サイクロドルームゲームDX/Cyclo Drome Game DX》  
【岡本敏子賞】上田順平《パチモンガタリ(キンタウルス、イッスン-サム、ビーチ太郎、アカオニクラウスの首、アカオニクラウスの靴)》  
【特別賞】ALIMO《リゾーノ/LEE ZO》  
【特別賞】ヤマガミユキヒロ《Night Watch》  
【特別賞】金子良ノのびアニキ《のびアニキの「岡本寝太郎現代芸術賞展」》  
【入選者】青木美歌、イノウエみゆき、ENERGY CENTER、勝 正光、国谷隆志、後藤靖香、齊藤寛之、塩津淳司、四宮金一、随行奏子、鈴木基真、竹内尚子、田中英行、谷口顕一郎、中村宏太、palla/河原和彦、耀樹樹鷺鷥、吉谷慶太、吉田翔

#### 第12回 岡本太郎現代芸術賞 (2008年)

応募総数 611点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】若木くるみ《面》  
【岡本敏子賞】長雪恵《こどものころ》  
【特別賞】山上渡《ウシロシヨウメン》  
【特別賞】タムラサトル《50の白熱灯のための接点》  
【特別賞】花岡伸宏《ずれ落ちた背中は飯に突き刺さる》  
【特別賞】佐藤雅晴《アバター-11》  
【入選者】ALIMO、飯田竜太、井口雄介、小田原のどか、古池潤也、坂口竜太、笹倉洋平、柴田英里、島本了多・エースナカジマ、田中麻記子、長谷川義朗、福井直子、宮崎直孝、森晴、淀川テクニク

#### 第13回 岡本太郎現代芸術賞 (2009年)

応募総数 758点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】三家俊彦《The indignant》  
【岡本敏子賞】辻牧子《日常の柔らかな化石》

【特別賞】ながさわたかひろ《プロ野球画報》  
【特別賞】長谷川学《風の前の塵》  
【入選者】浅野健一、入江早耶、梅田哲也、蔭山忠臣、加藤翼、鎌倉明弘、木村リン太郎、クニト、サガキケイタ、島本了多、須賀悠介、高橋和臣、高橋良、田辺朗宣、Natsu、原田賢幸、東方悠平、矢津吉隆

#### 第14回 岡本太郎現代芸術賞 (2010年)

応募総数 818点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】オル太《つちくれの祠》  
【岡本敏子賞】望月俊孝《うつつみ》  
【特別賞】北野謙《our face project》  
【特別賞】照沼敦朗《見えるか?》  
【特別賞】山本麻璃絵《ものモノ》  
【入選者】秋永邦洋、池田典子、上田尚宏、大垣美穂子、おおば英ゆき、大森隆義、オル太、加藤正臣、金子良ノのびアニキ、鎌田あや、川埜龍三、衣川泰典、熊澤未来子、高野浩子、コフネコトモ子、坂本夏海、島本了多、高嶋英男、チームやめよう、藤堂安規、二藤建人、松延総司、諸橋建太郎 (BARBARA DARLING)

#### 第15回 岡本太郎現代芸術賞 (2011年)

応募総数 797点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】関口光太郎《感性ネジ》  
【岡本敏子賞】千葉和成《ダンテ「神曲」千葉和成 現代解釈集「地獄篇1〜7圈」》  
【特別賞】坂間真実《欲べる(たべる)、吐べる(たべる)》  
【特別賞】メガネ《Energy of dance》  
【入選者】石井誠、猪原隆広、AKI INOMATA、太田祐司、加藤大介、加納俊輔、北村章、佐藤隼、柴田英里、島本了多と山本貴大、高木智広、高柳明、竹川宣彰、武田海、CHIE、東北画は可能か?、丹羽由梨香、松山賢、安田葉、湯真藤子

#### 第16回 岡本太郎現代芸術賞 (2012年)

応募総数 739点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】加藤智大《鉄茶室徹亭》  
【岡本敏子賞】石山浩達《Alien Vision : unlimited oil》  
【特別賞】内山翔二郎《Never die》  
【特別賞】eje(エヘ)《ものおと》  
【特別賞】栗原寿行《Eye》  
【特別賞】小松原智史《コマノエ》  
【特別賞】湯浅芽美《Momently stratum》  
【入選者】赤川芳之、井口雄介、池平徹兵、伊藤純代、伊奈章之、宇山聡範、太田侑子、狩野宏明、熊野海、國分郁子、白井忠俊、葉栗剛、宮崎勇次郎、村上幸織、鷺尾圭介

#### 第17回 岡本太郎現代芸術賞 (2013年)

応募総数 780点  
会場 川崎市岡本太郎美術館

【岡本太郎賞】キynchョム《まっかにながれる》  
【岡本敏子賞】サエボグ《Slaughterhouse-9》  
【特別賞】アートホーリメン《HORYMANと鮫》  
【特別賞】小松葉月《果たし状》  
【特別賞】じゅぼにか《悪ノリSNS「芸術は炎上だ!」》  
【特別賞】高本敦基《The Fall》  
【入選者】赤松音呂、栗真由美、小山真徳、鈴木雄介、田中偉一郎×田中十郎、知花玲央、長尾恵那、中村亮一、萩谷但馬、廣田真夕、文谷有佳里、柵木愛子、吉田晋之介、吉田和夏

#### 第18回 岡本太郎現代芸術賞 (2014年)

応募総数 672点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】ヨタ/Yotta《金時》  
【岡本敏子賞】久松知子《レベゼン 日本の美術》  
【特別賞】江頭誠《神宮寺宮型八棟造》  
【特別賞】佐野友紀《アウラの逆襲》  
【特別賞】藤村祥馬《どれいちゃん号》  
【特別賞】村井祐希《Land scape -TOMIOKA》  
【入選者】吾妻吟、足立篤史、石井明日香、石塚嘉宏、石山哲央、菊谷達史と四井雄大、金藤みなみ、構想計画所、澤井昌平、謝花翔陽、杉山恭平、豊福亮、檜木野瀬子、林樺人、平林貴宏、牧田愛、的野真祐、三井淑香、森村誠、山崎広樹、湯川洋康・中安恵一

#### 第19回 岡本太郎現代芸術賞 (2015年)

応募総数 485点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】三宅感《青空があるでしょう》  
【岡本敏子賞】折原智江《ミス煎餅》  
【特別賞】笹岡由梨子《Atem》  
【入選者】井田大介、岩村遠・鹿木倫太郎・古賀睦、楷の会・林樺人、川久保ジョイ、國本翼、関川耕嗣、TEAM WARERA、辻元百合子、坪井康宏、二藤建人、花沢忍、原田武、本郷芳哉、松下敦子、三角瞳、村上佳苗、村上慧、森本孝、横山奈美、六無

#### 第20回 岡本太郎現代芸術賞 (2016年)

応募総数 499点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】山本直樹《Miss lleのみた風景》  
【岡本敏子賞】井原宏路《Cycling》  
【特別賞】井上裕起《salamander [F1]》、黒木重雄《One Day》、あべゆか《BE GOD》  
【入選者】井口雄介、石野平四郎、因幡都頼、繪畑彩子、岡野里香、奥村彰一、加藤真史、川上幸子、工藤千尋、後藤拓朗、Scott Allen、鈴木伸吾、照屋美優、毒山凡太郎、富田美穂、ナルコ、福嶋幸平、福本歩、MYU mikki、山田弘幸、ユアサエボン

#### 第21回 岡本太郎現代芸術賞 (2017年)

応募総数 558点  
会場 川崎市岡本太郎美術館

【岡本太郎賞】さいあくななちゃん《芸術はロックンロールだ》  
【岡本敏子賞】弓指寛治《Oの慰霊》  
【特別賞】市川ジュン《白い鐘》、富安由真《in-between》、ユウキユキ《ユキテラス大御神☆天岩戸伝説》

【入選者】荒川朋子、ichiko Funai、大野修平、黒木重雄、黒宮菜葉、木暮奈津子、近藤祐史、笹田晋平、塩見真由、橋本悠希、藤本りか、文田聖二、細沼凌史、○△□《まるさんかくしかく》、村上力、室井悠輔、矢成光生、横山信人、吉田美希子、与那覇俊、ワタドリ計画(麻生知子・竹内明子)

#### 第22回 岡本太郎現代芸術賞 (2018年)

応募総数 416点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】檜皮一彦《hiwadrome: type ZERO spec3》  
【岡本敏子賞】風間天心《Funetasia》  
【特別賞】國久真有《BPM》、武内 カズノリ《こちふかば(ポッチ・川崎にて)》、田島大介《無限之超大國》  
【入選者】Art unit HUST(遠山 伸吾、臼木 英之) 秋山 佳奈子、赤穂進、イガワ 淑恵、井口雄介、大槌秀樹、岡野茜、革命アイドル暴走ちゃん、梶谷令、國久真有、佐野友紀、塩見亮介、瀧川真紀子、田中義樹、服部正志、檜皮一彦、藤原史江、本堀修二、馬嘉豪、宮内裕賀、宮田彩加、吉田絢乃

#### 第23回 岡本太郎現代芸術賞展 (2019年)

応募総数 452点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】野々上聡人《ラブレター》  
【岡本敏子賞】根本裕子《野良犬》  
【特別賞】澤井昌平《風景》、藤原千也《太陽のふね》、本濃研太《僕のDNAが知っている》、村上力《㊦一品洞「美術の力」》、森真之《View Tracing》  
【入選者】浅川正樹、井上直、大石早矢香、大小田万侑子、桂典子、小嶋晶、笹田晋平、佐藤圭一、そんたくづ、高島亮三、春田美咲、藤田淑子、松藤孝一、丸山喬平、水戸部春葉、村田勇気

#### 第24回 岡本太郎現代芸術賞展(2020年)

応募総数 616点  
会場 川崎市岡本太郎美術館  
【岡本太郎賞】大西茅布《レクイクロス》  
【岡本敏子賞】モリソン小林《break on through》  
【特別賞】植竹雄二郎《self portrait》、牛尾篤《大漁鯖し魚》、小野環《再編街》、唐仁原希《虹のふもとは宝物があるの》、浮遊亭骨牌《浮遊亭koi/ia》  
【入選者】東弘一郎、AYUMI ADACHI、袁方州、太田琴乃、かえるかわる子、加藤立、金子朋樹、黒木重雄、さとうくみ子、許寧、園部恵永子、ながさわたかひろ、西野壮平、原田愛子、藤田朋一、みなみりょうへい、山崎良太





## 第25回岡本太郎現代芸術賞展

| 会期 | 2022年(令和4)年2月19日(土)～5月15日(日)

| 主催 | 川崎市岡本太郎美術館

公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団

## 川崎市岡本太郎美術館

TARO OKAMOTO MUSEUM OF ART, KAWASAKI

〒214-0032 川崎市多摩区桁形7-1-5 生田緑地内

TEL: 044-900-9898 <https://www.taromuseum.jp>

編集 川崎市岡本太郎美術館

展覧会担当 富永ももこ、千村曜子、篠原優、片岡香

撮影 松野誠、榊原陽子

デザイン 山本達也(アート印刷株式会社)

制作・印刷 アート印刷株式会社

2022(令和4)年2月発行

©Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki 2022